

今期のマダコ漁獲量は昨年並みだが、盛漁期は遅れる見込み

(令和7年漁期のマダコの来遊・漁況予測)

7 - N o . 2 2
令和7年12月 5日
茨城県水産試験場

1. マダコの生態と茨城県での漁業

茨城県で漁獲されるマダコには、①本県沿岸で産卵・成長するものと②外房で産卵し、本県より北へ移動・成長し、秋から冬にかけて産卵のために外房へ南下する「渡りダコ」があります。

本県では、12月から翌年2月頃までがマダコ漁の主漁期で、主に「たこつぼ漁」で漁獲されます。特に鹿島灘での漁獲量が多く、鹿島灘で漁獲されたタコは「鹿島だこ」と称され、地域の特産品として知られています。

2. 昨年漁期の茨城県での漁模様

本県のマダコ漁の好不漁は「渡りダコ」の来遊状況に大きく影響され、過去20年間の主漁期（12月～翌年2月）の漁獲量は13～219トンと大きく変動しています。

前期の主漁期（R6年12月～R7年2月）「全漁法」の漁獲量は111トン（うちタコツボ漁は102トン）で過去20年間中10位の中漁水準でした（図1）。

3. 今期のマダコ漁の予測

(1) 「渡りダコ」の生息海域

本県へ来遊する「渡りダコ」は、岩手県～茨城県の海域に生息していますが、各県の漁獲水準から「渡りダコ」の主群は岩手県～宮城県の海域に生息していると考えられます（図2）。

(2) 他県の漁模様と「渡りダコ」の来遊時期

今年の9～10月の漁模様は、岩手県では175トンで昨年同期と同程度、宮城県では87トンで昨年同期の4割程度、福島県では9トン弱で昨年同期の3割程度になっています（図3）。

宮城県の9～10月の漁獲量が低迷していることから、「渡りダコ」主群の南下開始が遅れるているものと推察されます。一方、11月上旬に那珂湊周辺のタコ遊漁船で良型が増え、釣獲数も増えており、主群以外の「渡りダコ」の南下が始まっていると考えられます。

このため、年内は、近隣海域の「渡りダコ」主体の漁獲にとどまり、盛漁期は年明けになるものと推察されます。

(3) 今期の資源水準と漁況予測

「渡りダコ」の主群が生息する岩手県と宮城県の漁獲量が、「渡りダコ」の資源水準を概ね示しているものと考えられます。

今年は、岩手県の9～10月の漁獲量が昨年同期と同程度であること、11月に入って宮城県の漁獲量が増加していることから、「渡りダコ」の資源水準は昨年と同程度であると推察されます。

また、宮城県同様、福島県の11月の漁獲量が増加傾向にあることから、「渡りダコ」主群の南下も始まると考えられるので、今期の主漁期の漁模様は、昨年並の中漁水準になると予測します。

(回遊性資源部 茅根 正洋)

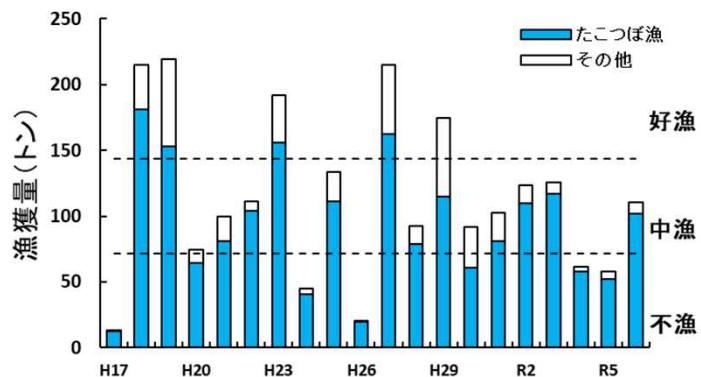


図 1 茨城県のマダコ主漁期（12月～翌年2月）の漁獲量の推移

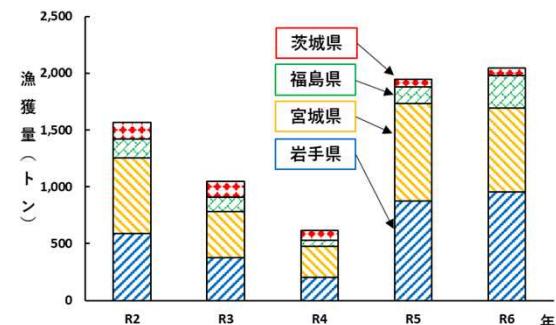


図 2 県別マダコ漁獲量の推移

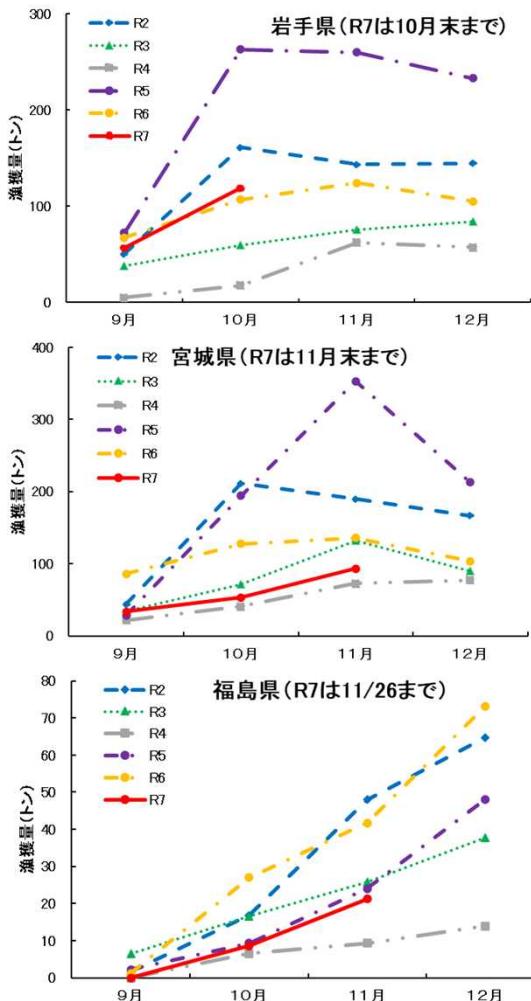


図 3 各県のマダコ月別漁獲量

(出典：岩手県「岩手県水産技術センター」
宮城県「みやぎ水産NAVY」
福島県「福島マリンシステム」より)